

中村春子（シャンソン歌手）

基調講演「年をとるのは怖くない」を聞いて

講師の中村春子さんは1933年（昭和8年）生まれの90歳。ちょっと難聴はあるが綺麗な白髪にシャキッとした姿勢。

太平洋戦争に敗戦した時（1945年）は12歳。鬼畜米英の時代から物資をくれる救済者へ。世の中の価値観は一夜にして180度変わった。

中村さんの話は時代の波に飲まれながら過ごした戦前・戦中の時代。それに対比し戦後は自由奔走に過ごした話、この二つを切実にそして少しユーモア的に話された。

まとめを先に言えば、中村さんは思春期を境目に世の中が一変したことから「肚が据わっている」「年をとるのが怖くないはずだ」が結論。

司会を担当していた手前二言三言話すことができた。誰でも包み込むような笑顔にも驚いたが奥の眼光にも驚いた。さすがに今日の演題「年をとるのは怖くない」人生そのものだと思った。

戦中の小学校4年生時の勤労奉仕、田植え作業でヒルに刺された（吸われた）話、稲刈りやわら人形、家族での防空壕設置作業、ウクライナ市民の現在を想像しながら聞きいった。「戦争は人間を変える」「戦争に勝者はいない」。体験した人の説得力は身体に響く。

終戦後、「私は時代の前髪をつかんだ」の言葉から始まった。八代に住み経済的に比較的恵まれていたことから、早くからテニスに挑戦。それも仲間とテニス場作りからだ。熊本県代表で国体選手にもなった。映画にも憧れた。その当時夜遅く上映されるナイターを見た話。中学校2年生での初恋。デートの時、濟々鬢に通う彼氏がリングを学生服の袖でゴシゴ拭き、それを半分に割って食べたことが一番の思い出と言う。

少しも嫌みが無く古き良き時代を懐かしむ気持ちとなった。不思議だ。

大学入学選抜時に知り合いからコネを使うよう持ち掛けられた時、そんな卑怯なこととはしたくない！と断った話。まさしく反骨心の塊。その反骨心の塊はその後の中村さんの生き方にも反映している。56歳でシャンソンを始め59歳で320名の聴衆の前でコンサートを開催。熊本のシャンソンの発生と言われている。

後日、長谷川さんから中村春子さんのブログの紹介があった。「あるがままに高齢を生きる！シャンソン・菜園とともに！」

80歳からブログを始められたようだ。中村さんの話を聞いて、なんだか年をとるのは怖くない気持ちとなった。ありがとうございました！